

KLI Risk Management Journal

2026年
7月

発行日：令和8年7月
発行者：兼松ロジスティクス アンド インシュアランス株式会社 保険事業部
電話：03-4214-3951

1. 防災気象情報の改正（2026年5月～）

2026年5月から、新しい防災気象情報が運用開始となりました。今回の改正は約20年ぶりの抜本的な見直しと言われており、これまでも気象庁による部分的な改正は行われていましたが、警報・注意報の体系そのものを大きく組み替えるレベルの改正は非常に稀なものとなります。今回は防災気象情報の改正をきっかけに、皆様が日頃どのように災害に対する意識・備えをすべきか解説いたします。

2. 改正の背景

これまでの防災気象情報では、河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報等は、これまで警戒レベルとの対応が複雑で分かりにくくなっていましたが、今回の改善により、避難情報の5段階の警戒レベルに対応し、避難の判断をしやすくなっています。また以前の気象情報は専門用語が多く、一般の人には少し分かりにくい表現がありましたが、新しい防災気象情報では下図1の通り「**5段階の警戒レベル**」へ変更し、年配の方・外国人含め全ての人が直感的に危険度が分かる表示に改善されております。

また、気象庁が防災気象情報を見直す理由は明確で、**災害の形が変わった**からです。豪雨は「数十年に一度」ではなく、毎年どこかで発生する。台風は巨大化し、線状降水帯は予測が難しいまま発生頻度を上げている。こうした変化に対して、従来の情報体系では「伝わらない」「間に合わない」「行動につながらない」という課題が浮き彫りになったことも改正の背景としてあげられます。



	河川氾濫	大 雨	土砂災害	高 潮
警戒レベル 5 相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル 4 相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル 3 相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル 1	早期注意情報			



警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます



河川の氾濫の危険度の伝え方が変わりました（特別警報の新設など）



「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます

（気象庁HPより引用）

3. 災害時の行動

今回の防災気象情報の改正にあたり、従来と比較し災害時取るべき行動がより明確になりました。

図2は警戒レベルごとに皆様が取るべき行動が記載されている図となりますので、ご自身でよく理解すると共に、是非貴社従業員の皆様へご周知をお願いいたします。

■図2



4. 災害への備え

一方、どれだけ対策をしていたとしても避けることができないのが自然の脅威です。
その為、万が一貴社が罹災してしまった場合でも、事業の早期復旧に向け、災害への備えを十分に行っておくことが重要となりますので、災害に対する事前の備え（対策・備蓄品・保険）について解説いたします。

①対策（車、在庫品等の資産）

台風時には、**港近くの倉庫の在庫品が水没、低地に駐車した自動車が水没する可能性**もあります。
その為、在庫品の保管拠点を分散させる、高い場所にある駐車場へ避難させる等の事前対策も必要です。

②備蓄品

災害への備えとして**企業の備蓄品も重要**となりますので、弊社“災害備蓄管理士”（2名在籍）より、災害時に必要とされる備蓄品の目安をご案内いたします。

災害備蓄管理士：備蓄のことに理解を深め適切な備蓄管理を推進することを目的とした民間資格

【備蓄品の目安“災害後3日間に対応” 社員数60名の場合】

水・食料の目安量（60名 × 3日分）

品目	1人1日あたり	60名 × 3日分	備考
水	3L	540L（2Lペットボトル270本）	飲料＋調理・衛生用含む
食料	3食	540食	アルファ米、缶詰、レトルト、乾パンなど

衛生用品の目安量

品目	1人1日あたり	60名 × 3日分	備考
簡易トイレ	5回分	900回分	1人1日5回想定
ウェットティッシュ	10枚	1,800枚	手洗い代用・体拭き用
マスク	1枚	180枚	感染症対策用
生理用品	女性30名想定	約270枚	1人3日分9枚目安

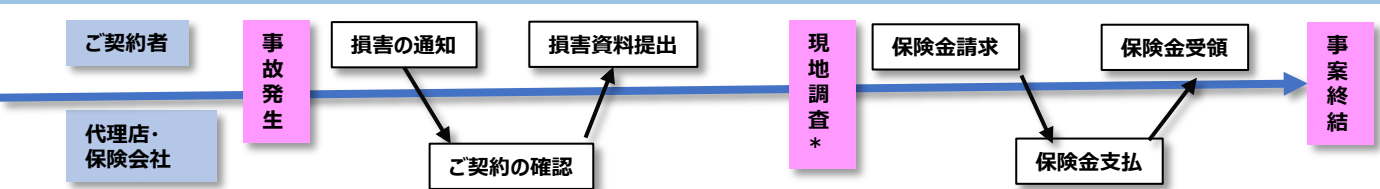
③保険

まず、現在の保険契約の風災、水災の補償内容についてご確認ください、不明な場合には代理店に確認することをお勧めします。また、罹災時に火災保険の請求を行おうとした際、適切な保険契約となっておらず請求ができないケースもある為、下記ポイントをご参考に事前に貴社が希望する補償内容となっているのか、保険の対象として漏れないのか改めて保険代理店へご確認ください。

確認ポイント

①保険金額	再調達価額は適切に設定されているか？毎年見直しをしているか？
②水災補償	洪水・高潮・土砂崩れの際に補償される水災が担保されているか？
③商品の担保	建物・設備だけではなく、商品・製品も対象にできているか？
④免責金額	事故時の免責金額（自己負担額）が過大になっていないか？

（ご参考）万一の事故の際には保険代理店にご連絡ください。保険金お支払いまでの流れは下記の通りです（概要）



*現地調査の実施は損害状況によります